



NPO × 若者
= 創る!!

Action to 2030
きみのチカラがふくしまを創る

令和6年度 福島特定原子力施設地域振興交付金事業

チャレンジインターンシップ事業 事業報告書

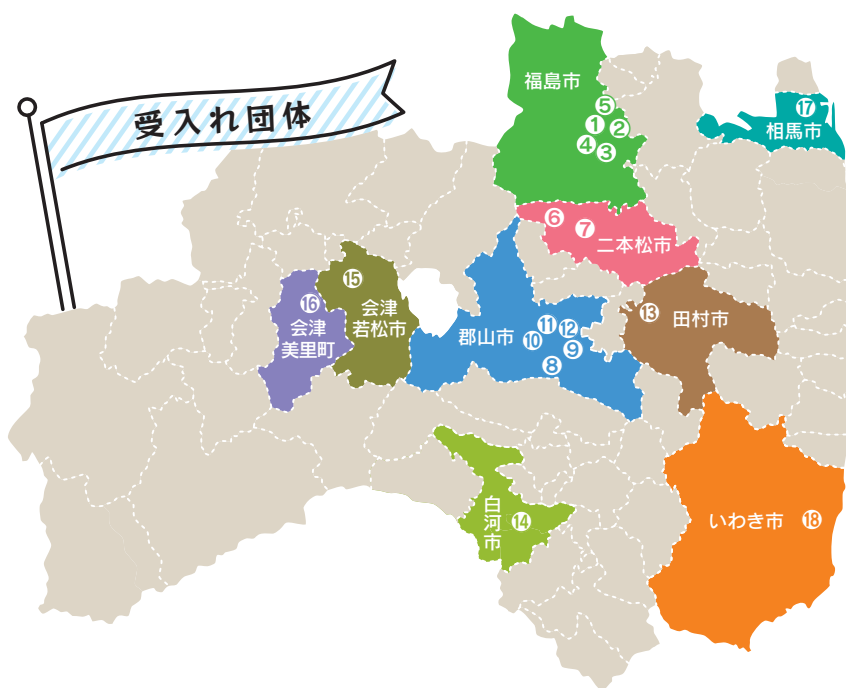


主催 福島県

共催 Coca-Cola コカ・コーラ ボトラーズジャパン株式会社
BOTTLETS JAPAN INC.

目次

▶ごあいさつ	P1
▶事業概要	P2
▶受入れ団体・インターン生紹介	P3
▶インターン生アンケート	P24
▶受入れ団体アンケート	P26
▶ホームページのご案内	P28



福島市	① 特定非営利活動法人 ビーンズふくしま	P3
	② NPO法人 野鳥の会ふくしま	P4
	③ 特定非営利活動法人 福島県レクリエーション協会	P5
	④ 特定非営利活動法人 青空保育たけの子	P6
	⑤ 特定非営利活動法人 福島就労支援センター	P7
二本松市	⑥ 特定非営利活動法人 あだたら青い空	P8
	⑦ NPO法人 コーヒータイム	P10
郡山市	⑧ 認定特定非営利活動法人 アイ・キャン	P11
	⑨ 認定特定非営利活動法人 キャリア・デザイナーズ	P12
	⑩ 特定非営利活動法人 ココネット・ママ	P13
	⑪ 特定非営利活動法人 あいえるの会	P15
	⑫ 特定非営利活動法人 こおりやま子ども若者ネットワーク	P16
田村市	⑬ NPO法人 くらすタ	P18
白河市	⑭ 特定非営利活動法人 表郷ボランティアネットワーク	P19
会津若松市	⑮ 特定非営利活動法人 環境地域文化エナジー	P20
会津美里町	⑯ 特定非営利活動法人 会津自然塾	P21
相馬市	⑰ 特定非営利活動法人 ふれあいサポート館アトリエ	P22
いわき市	⑱ 特定非営利活動法人 青陽	P23

本事業は、若い世代がNPOでのインターンシップ活動を通じて、地域の課題に対する理解を深める中で、福島県への愛着を育み県内への定着を促進するとともに、NPO事業の活性化に繋げていただくことを目的に実施しております。

インターン生の皆さんは、将来の仕事に役立てたい、地元のことをもっと知りたい、興味があることにチャレンジしたいなど、様々な目的を持って参加されたと思います。今回の活動は、実践的な学びや新たな発見を得る機会となったのではないのでしょうか。

貴重な機会を提供していただいたNPO関係者の皆さんに、心より御礼を申し上げます。

また、コカ・コーラ ボトラーズジャパン株式会社様には、参加者の皆さんが楽しく生き生きと活動できるよう、様々な御支援をいただきましたことに併せて感謝を申し上げます。

県では、引き続き、NPOや企業等の多様な主体との協働を推進し、本県の復興や地域課題の解決に取り組んでまいります。今後とも関係する皆様のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

福島県企画調整部文化スポーツ局
局長 市村 尊広

コカ・コーラ ボトラーズジャパンでは、「すべての人にハッピーなひとときをお届けし、価値を創造する」というミッションのもと、本業を通じて地域が抱える社会課題に対して、地域のみなさまとの協働による課題解決に向けた取り組みを各地で進めております。

福島県では、社会で活躍する若者の育成と地域の活性化を目的とした本事業への支援を2016年より開始し、福島県をはじめ関係者のみなさまと協働で企画・運営を行ってまいりました。活動開始からこれまで、多くのNPOと学生とを繋ぎ、震災復興や地域振興、福祉の分野で活動するNPO団体でのインターンシップを通じて、地域で活躍する次世代の育成に尽力してまいりました。

学生を受け入れていただいたNPOのみなさまに敬意を表すとともに、これまで参加された学生のみなさまが、福島県内でさまざまな形で活躍されていることを、たいへん嬉しく思います。

コカ・コーラ ボトラーズジャパンは、これからも持続可能な社会の実現に向けて、地域のみなさまと共に歩みを進めてまいります。

コカ・コーラ ボトラーズジャパン株式会社
コミュニケーション戦略統括部 統括部長 金澤 めぐみ

事業概要

「チャレンジインターンシップ事業」は、福島県在住や本県出身または本県に関心がある学生（高校生、短大生、大学生、大学院生、専門学校生）が福島県内のNPO団体の活動に参加し、福島県の復興や法人の活動、地域の課題解決などについて学び、体験することで、福島への愛着心を育み、若者の県内への定着や地域活動への参画を促進することを目的としています。

詳しくは [チャレンジインターンシップ 福島](https://f-intern.f-saposen.jp) [検索](#)

<https://f-intern.f-saposen.jp>



受入NPO法人募集
4月4日(木)～4月18日(木)

インターン生募集
5月8日(水)～5月29日(水)

マッチング

3者オリエンテーション(オンライン)
6月17日(月)～6月24日(月)

インターン生及び受入れNPO法人決定

開講式

7月21日(日)郡山商工会議所会館

インターンシップ実施
7月22日(月)～9月30日(月)



インターン生情報交換会(交流会)

8月24日(土)郡山市音楽・文化交流館(ミューカルがくと館)

メンター情報交換会(オンライン)
9月4日(水)



活動成果報告会・閉講式
10月26日(土)郡山商工会議所会館



特定非営利活動法人 ビーンズふくしま

所在地 福島市霞町9-18

URL <https://www.beans-fukushima.or.jp/>



主な活動 1999年より生きづらさを抱えた子ども・若者の支援を行ってきた「ビーンズふくしま」。ほっと肩の力を抜いて、自分らしく居ることができ、成長できる「居場所」。私たちは、それぞれに必要な、安心できる地域の居場所をつくり、そこに集う「人と人」、そして「人と地域」との架け橋を繋いでいきます。

受入れ団体コメント 子どもたちが嬉しそうに声を掛け、いろいろ誘ってくれていたのは、お2人の関わり方がスムーズだったからだと思います。これから先に活かして欲しいです。



インターン生紹介



ヤベ トモヤ
矢部 智也さん

福島学院大学4年／須賀川市出身

Q1. インターンシップではどのような活動をしましたか

主に子どもたちと遊ぶことがメインで、ゲームをしたり料理を一緒に作ったりしました。ゲームや料理では、子どもたちと職員がアイデアを出した企画を一緒に行いました。企画外では、学習支援を行ったり職員のお手伝いをしました。

Q2. 活動を通してどのような学びや気づきがありましたか

子どもとの関わり方について改めて学ばせてもらうことができました。また、子どもと一緒に学びながら経験していくことは大切だと思いました。

Q3. 学んだことや気付いたことを今後どのように活かしていきますか

今後は、様々な事情で苦しんでいる子どもたちを支援したいです。そのために、今回の学びを活かして子どもたちの話をしっかり聞いて共感してあげられる職員になりたいと思いました。また、今回の子どもたちとの関わり方を将来に活かしていきたいです。



インターン生紹介



サカタ ナオカ
坂田 直香さん

福島大学3年／青森県八戸市出身

Q1. インターンシップではどのような活動をしましたか

ビーンズふくしまさんの幅広い活動の中でも、フリースクールでお世話になりました。基本的には小中高生とひたすら遊ぶだけでした。ボードゲームをやったり、ワークショップに参加したり、あぶくま洞へ見学に行ったりと充実した時間を過ごしました。

Q2. 活動を通してどのような学びや気づきがありましたか

自分の不登校経験をいい形で活かせるのではと思っていたのですが、学校に行くのが難しい理由は人それぞれで、単にみんな同じ接し方できないということを知りました。フリースクールだから、ということを考えすぎず接することが重要だと感じました。

Q3. 学んだことや気付いたことを今後どのように活かしていきますか

子どもと接する職に就くと決めているわけではありませんが、大学の活動の中では子どもたちと関わる機会が多くあります。その場面で、自分の経験を応用させながら、就活に関しては周りの人への意味で頼りながら、今後の大学生活を有意義にしようと思いました。



NPO法人 野鳥の会ふくしま

所在地 福島市山口字宮脇98

U R L <https://f-kotorinomori.org/>



主な活動

福島市小鳥の森を中心に人と生き物が共に住める森づくりを目指して、環境教育、環境保全、ネットワークの構築の3つを柱とした様々な活動を行っています。

受入れ団体 コメント

大学生等のインターンシップを受け入れたことがありましたが、高校生は初めてでした。NPOの活動を幅広く知ってもらう上では、このようなインターンシップの受け入れ先のマッチングをしていただける機会を与えてくださって良い事業だと思います。自然離れが進む中、自然環境への興味関心をもってもらう場を提供していただいたことは嬉しかったです。



インターン生紹介



サイトウ ソウ
齋藤 蒼空さん
福島南高等学校3年／川俣町出身

Q1.インターンシップではどのような活動をしましたか

福島市小鳥の森を中心に生態調査を行ったり、標本調査を行って生態系を調べました。実際に山に入って自然と触れ合いながら楽しく福島の自然について学ぶことができました。標本整理や採集で小鳥の森には記録がなかったものを発見できて嬉しかったです。

Q2.活動を通してどのような学びや気づきがありましたか

温暖化が進んだことで北上してきた生き物、元の生態系を乱す外来生物などについて教えていただきました。現在の生態系を保つために何ができるのか、どうしたらその活動に参加してくれる人が増えるのかを考える事が大切だとわかりました。

Q3.学んだことや気付いたことを今後どのように活かしていきますか

森林には人を癒す力があり、山を歩くことで運動にもなることから、私が目指している精神保健福祉士の仕事にも取り入れたら良いのではないかと考えるきっかけになりました。自然と人を結びつけて、より良い仕事ができるようにしたいです。



特定非営利活動法人 福島県レクリエーション協会

所在地 福島市黒岩字田部屋53-5

URL <https://pref-fukushima.recsite.jp/>



主な活動

当協会は、子ども・子育て、介護予防・認知症予防、東日本大震災と放射能災害で被災された方を支援する笑顔Again～という3つのミッションを軸に、健康スポーツ、コミュニケーションや人間関係づくり等の事業を展開しています。

受入れ団体 コメント

参加された齋藤さんには、レクリエーション協会の事業に前向きに取り組んでいただきました。被災者支援事業に参加してきたお年寄りからの受けもよく、「また来てほしい」と言われていました。これをきっかけに、レクリエーションのことをもっと好きになってもらうことができたならとてもうれしいです。これからも頑張ってください。



インターン生紹介



サイトウ ミズキ
齋藤 瑞生さん
福島南高等学校2年／福島市出身

Q1. インターンシップではどのような活動をしましたか

ある日の活動では復興公営住宅に住む高齢者の方と集会所で歌を歌ったり、軽い運動などを行いました。一人暮らしの高齢者は言葉を発する機会があまり無い為言葉が出てこなくなり、しりとりが難しくなるそうです。そこで文字数を制限したしりとりを行いました。

Q2. 活動を通してどのような学びや気づきがありましたか

活動の一つに子どもと一緒に遊ぶ活動がありました。私は子どもに苦手意識があったので上手くやれるか心配でしたが、実際に会ってみるとそんな心配は全く無く私まで楽しくなってしまう、子どもたちの方から声を掛けてくれることもありました。これは新しい気づきでした。

Q3. 学んだことや気付いたことを今後どのように活かしていきますか

子どもや高齢者と関わることで、こういった仕事もあるんだと視野が広がりました。このインターンシップでは普段ならできないことばかりだったのでとても良い経験になりました。これからの進路選択や大学受験に活かしていきたいと思っています。



特定非営利活動法人 青空保育たけの子

所在地 福島市郷野目字仲46-1

URL <https://www.takenoko-aozora.org/home>



主な活動 野外保育を中心に活動し、自分で考え自分で話し、自分で行動できる子どもを育成しています。

受入れ団体 コメント

若い人たちが来てくれるとそれだけで場が明るくなります。何より、園児たちが若い人と遊ぶことを喜んでいます。インターン生の中には自然が苦手な人やコミュニケーションが苦手な人もいますが、私たちの団体に来てくれることで、そのことに前向きに取り組んでいる姿をみることができ、個人の課題に貢献できていることがうれしいです。インターン生たちの現在、そして未来に少しでも関わることができることは受入れ団体冥利につきます。



インターン生紹介



クマダ リレイ
熊田 理麗さん
郡山東高等学校2年／郡山市出身

Q1. インターンシップではどのような活動をしましたか
保育の活動や、「とがり隊」※キャンプ運営の補助を行いました。子どもたちと一緒に遊んだりすることが多かったです。

Q2. 活動を通してどのような学びや気づきがありましたか
保育士という仕事は、幼児の面倒を見たり、世話をしたりするだけではなく、保護者が育児のことなどで悩んでいるか気を配らなければならないと保育士の方に教えていただきました。私は、どんな仕事にもあまり知られていない仕事内容があるとわかりました。

Q3. 学んだことや気付いたことを今後どのように活かしていきますか

私は今回学んだことを活かし、これから幼児たちと接するときに優しい口調で話すことであったり、視線を合わせるなどを意識していきたいと思います。



※「とがり隊」—自然の中でちょっと「とがった」活動にチャレンジする体験イベント

インターン生紹介



タカハシ ニコ
高橋 仁紅さん
福島大学1年／山形県米沢市

Q1. インターンシップではどのような活動をしましたか
子どもたちのお世話をしながら、一緒に遊び活動しました。外での活動の日は、ザリガニを釣りに行ったり公園へ遊びに行ったりしました。たけの子さんのイベントで親子キャンプがあり、日帰りで参加させていただきました。

Q2. 活動を通してどのような学びや気づきがありましたか
子どもと関わることの楽しさと大変さを知ることができました。また、子どもたちができることは自分でさせて大人はそれを見守るということが、子どもたちの成長に繋がり、選択肢を広げているということを知りました。

Q3. 学んだことや気付いたことを今後どのように活かしていきますか

これからの将来や職業選択に活かしていきたいです。今回のインターンシップへの参加をきっかけに、その他の地域活動やボランティア活動などにも参加したいと考えようになりました。



特定非営利活動法人 福島就労支援センター

所在地 福島市宮代字宝田前2-4

URL <https://npo-fssc.org/>



主な活動

就労支援活動に関する事業、地域活性化につながる事業、子どもの健全育成に関わる事業を行っています。具体的にはパソコン教室の運営、子どもの運動教室、県内避難者・被災者との多世代交流、外国人のためのビジネスマナー情報誌の発行などを行っています。

受入れ団体コメント

貴重な高校3年生の夏休みにNPOでインターンをしようというその気持ちだけで素晴らしいです。活動の中でも一生懸命に目と耳を傾けて色々吸収しようという姿がありました。高校生の今の考えや気持ちを知れたこと、嬉しくもあり発見もあり勉強になりました。これからの大学生活、夢に向かってがんばってね!



インターン生紹介



ワタナベ ミ ク
渡辺 海空さん
福島南高等学校3年／福島市出身

Q1. インターンシップではどのような活動をしましたか

地域の方との畑仕事やポッチャなどの運動を通じてコミュニケーションをとり、野菜に関する知識を身につけました。さらに、川俣や飯舘村、葛尾村の魅力を発信するために、実際に訪れて、有名な場所や食べ物に触れ、その魅力を堪能しました。

Q2. 活動を通してどのような学びや気づきがありましたか

福島就労支援センターさんの活動や支援についてお話を伺い、日本で働く外国人が抱える問題やどのような支援が必要なのか知ることができました。異文化理解や社会問題に対する理解を深めるだけでなく、地域への関心や人間関係の大切さを学ぶ良い機会になりました。

Q3. 学んだことや気付いたことを今後どのように活かしていきますか

この学びを活かして、日本で働く外国人の支援活動に参加したり、異文化交流の場を提供する活動を行いたいです。また、地域の課題や社会問題に対して積極的に関与し、解決に向けた活動に取り組みたいです。



インターン生紹介



サトウ アオイ
佐藤 葵さん
福島南高等学校3年／伊達市出身

Q1. インターンシップではどのような活動をしましたか

震災で避難されている方や被災された方々と一緒に畑作業をしたり、ポッチャというスポーツをやったりしました。また、福島を国内外へ発信するために、川俣町・飯舘村・葛尾村の取材に同行し、役場の方にお話を伺い、おすすめスポットなどを巡りました。

Q2. 活動を通してどのような学びや気づきがありましたか

様々な世代の方々と会話しながら畑作業や運動をすることは、楽しみだけでなく元気を貰うことができ、生きがいへと繋がるのだと感じました。このことから、人々が交流できるような地域コミュニティを増やしていくことが大切だということを学びました。

Q3. 学んだことや気付いたことを今後どのように活かしていきますか

私はまだまだ福島の魅力を知らないのだと気付かされたので、もっと調べて知って発信していけたらいいと思います。また、地域コミュニティの大切さを知ることができたので、横の繋がりを持った地域づくりについて学びを深め、未来の福島で役立てていきたいです。



特定非営利活動法人 あだたら青い空

所在地 二本松市岳温泉二丁目20番地11

URL <https://www.adatara-aoisora.com/>



主な活動

被災者支援や子ども支援などを通じて、福島復興に寄与することを目的とした団体です。主な活動は①子どもの貧困対策や地域の居場所づくりとしてのこども食堂事業、②被災者と地域住民の交流促進と生きがいづくり事業、③不登校支援や子どもの居場所づくり事業、④子どもの自然体験づくりとしての森のがっこう事業などです。

受入れ団体コメント

チャレンジインターンシップは、若い世代にこども食堂やNPOについて理解していただくために、毎回参加させていただいています。インターン生と触れ合う中で、私たちの活動の不十分さや新たな活動の視点などを得ることができます。これからもチャレンジインターンシップに参加して、若い世代と一緒に活動創造していきたいと思います。



インターン生紹介



サカイ ヒロマサ
酒井 大雅さん

福島南高等学校3年／福島市出身

Q1. インターンシップではどのような活動をしましたか

子どもたちの補助をしながら、こども食堂の料理と一緒に作りました。そして、出来上がった料理を食べた後は、子どもたちと折り紙や塗り絵をして過ごしました。料理をする際は、子どもたちが包丁やフライパンなどで指を切ったり火傷をしないように気をつけました。

Q2. 活動を通してどのような学びや気づきがありましたか

子どもたちの元気・活力に驚かされることが多くありました。一緒に子どもたちと過ごす中で、誰よりも楽しそうに料理をして、誰よりもおいしそうに料理を食べる姿を見て、子どもたちのエネルギーを実感しました。この活動ができてとても良かったです。

Q3. 学んだことや気付いたことを今後どのように活かしていきますか

今後も他団体でボランティア活動をしていきたいと思っているので、今回養った子どもたちと接する際のコミュニケーションスキルを活かしていきたいです。私も子どもたちのように積極的に色々なことに挑戦していきたいです。



インターン生紹介



コクブン ハルト
國分 晴斗さん
安達高等学校3年／本宮市出身

Q1.インターンシップではどのような活動をしましたか

こども食堂で、主に子どもたちにするための料理を子どもたちと一緒に作り上げ、全員でおいしくいただくということも食堂を体験しました。また、おもちゃやゲームなどを通して、子どもたちの遊び相手となり、子どもたちの好奇心を向上させ、遊び心を育む活動をしました。

Q2.活動を通してどのような学びや気づきがありましたか

元気いっぱいの子どもたちとたくさん一緒に遊んだり、作った料理をおいしそうに食べてくれるような姿を見ると、自然とうれしくなっている自分がいることに気付かされました。そして、子どもと遊ぶことの重要さと楽しさについて深く理解することができました。

Q3.学んだことや気付いたことを今後どのように活かしていきますか

私は将来公務員となって、地域を復興させていきたいと考えています。その中でも子どもの復興を中心に考えており、ここで学んだ子どもたちが元気でいてくれることの大切さを復興の局面へと展開していき、発展を導くようなアイデアを思いつくように活かしたいです。



インターン生紹介



ワタナベ ヨウスケ
渡辺 洋介さん
安達高等学校3年／二本松市出身

Q1.インターンシップではどのような活動をしましたか

こども食堂で小さな子どもたちと、その家族の方々と一緒に料理を作りました。また、食後は子どもたちとフルーツバスケットや塗り絵、けん玉などをして交流しました。

Q2.活動を通してどのような学びや気づきがありましたか

あだたら青い空様のこども食堂「ハラクッチー」は、子どもやその家族も無料で食事ができるということに驚きました。また、食事だけでなく子どもたちとの交流もあり、地域の方々とコミュニティとしての側面も持っているのだなと思いました。

Q3.学んだことや気付いたことを今後どのように活かしていきますか

今回の活動から、地域の方々、そして未来を繋ぐ世代との交流の重要性、そしてこども食堂の機能について学びました。この学びを社会にでて、就職したときなどで活かしていきたいです。



NPO法人 コーヒータイム

所在地 二本松市若宮二丁目163-1

URL <http://coffeetime.a.la9.jp>



主な活動 就労継続支援B型事業所という、障がいや病気をもつ方へ自立や社会復帰を支援しています。作業場での自主製品作成や、アパート清掃、喫茶店などの仕事をしています。

受入れ団体コメント 利用者さんと一緒に過ごしていただき、皆さんも楽しくすごせました。今後は、学生時代にしかできないことを、たくさん経験してほしいです。



インターン生紹介



カタオカ ミユウ
片岡 美優さん
桜の聖母短期大学1年/
二本松市出身

Q1. インターンシップではどのような活動をしましたか

コースターや糸巻きボールペンなど、ショップで販売する商品の作成や認定こども園まゆみぶらすなどの施設の清掃作業、ショップでの飲食物の作成や接客業務など、幅広い活動を体験させていただきました。どれも新鮮でとても勉強になることばかりでした。

Q2. 活動を通してどのような学びや気づきがありましたか

相互理解を深めるためにも、相手のことを認めることの大切さを知りました。私は以前は、自分と違う意見が出た時はどのように折り合いをつけるかばかり考えていましたが、理解するために努力することの大切さを今回のインターンで学びました。

Q3. 学んだことや気付いたことを今後どのように活かしていきますか

私は人見知りが酷く、利用者さんたちとコミュニケーションを取ることをためらっていましたが、一歩踏み出して相手を理解するための努力をしていきたいと思いました。それが居場所の形成にも繋がっていくと考えます。認めることで新しい発見に繋がると 생각합니다。



認定特定非営利活動法人 アイ・キャン

所在地 郡山市安積四丁目3-1

URL <https://asaka.or.jp/ican/>



主な活動

社会医療法人あさかホスピタルグループの一員であり、主として精神障害や発達障害の相談、居住支援や就労支援を行っています。障がいを持つ方の個性を理解し「私もできる(I can)」と夢を持てる、明るい地域社会に向け、活動しています。

受入れ団体コメント

当法人は、障がいを持つ方の個性と理解し、その人らしく生きることを支援します。インターンシップの時間で障がいを持つメンバーさんと共有した時間が、お二人の目標を実現するための糧になれば嬉しいです。期間中に様々な気づきがあったと思いますが、貴重な経験になることを願っています。最後にアイ・キャンを選んでいただいたお二方、チャレンジインターンシップ事業を運営されている皆様に感謝申し上げます。



インターン生紹介



ホソダ マヤ
細田 真矢さん
福島大学2年／郡山市出身

Q1.インターンシップではどのような活動をしましたか

インターン初日はアイ・キャンさんの沿革を学び、その後各事業所を見学しました。二日目は併設されているパン工房で利用者さんとバックヤード作業をしたり、スコーン作りをしました。さらに、三日目はKふぁーむで、四日目はみはる工房で就労体験をしました。

Q2.活動を通してどのような学びや気づきがありましたか

インターンシップでは、本部施設での活動と5つの事業所での就労体験をしました。アイ・キャンさんの活動方針でもある、地域と共生し障がいの有無に関わらず、隔たりなく地域で生きていくことを大切にしている面を随所で感じ、気づき学べました。

Q3.学んだことや気付いたことを今後どのように活かしていきますか

私は、インターンシップで学んだことを今後の大学での活動や将来就職した際に役立てるようにしたいです。将来は公務員になりたいと考えているので、アイ・キャンさんで活動を行った際に知ったニーズを糧にして、多様な立場の方の需要に応えられるようにしたいです。



インターン生紹介



マシコ アイリ
増子 愛莉さん
郡山高等学校2年／郡山市出身

Q1.インターンシップではどのような活動をしましたか

主に障がいを持つ方と一緒に就労体験をしました。内容は、パンを作る作業、農場での卵磨き、清掃作業、マスクを袋に詰める作業などの利用者さんが行う作業を実際に行いました。また、アイ・キャン施設のサポート内容も学び、実際に見学しました。

Q2.活動を通してどのような学びや気づきがありましたか

利用者さんの一人ひとりに合ったサポートを提供することが大切だと知ることができました。時間や内容を利用者さんの状況に合わせることで仕事を継続しやすかったり、より自立や社会復帰がしやすくなると知ることができました。

Q3.学んだことや気付いたことを今後どのように活かしていきますか

将来特別支援学校の先生になったときに、一人ひとりの個性やニーズに合わせてサポートすることなどに活かしたいです。また、普段の生活でもぜひ今回学んだことを活かしていきたいです。



認定特定非営利活動法人 キャリア・デザイナーズ

所在地 郡山市昭和二丁目2番7号

URL <https://npocd.jp/>



主な活動

2008年(平成20年)より福島県郡山市にて、ひきこもり経験者ら10～50代前半の若者・壮年の社会参加や就労自立支援を行っている認定NPO法人です。安心して参加できる環境を提供し、他者との交流や様々な活動参加を通して将来の方向性を見つけられるよう心掛けています。

受入れ団体コメント

この夏、お二人が弊法人にインターンとしてご参加くださいました。それぞれが明確な目標を持ち、活動や事務局のサポートに熱心に取り組んでくださいました。お二人の姿勢は、弊法人利用者、スタッフ、ボランティアにとっても大きな励みとなりました。今回のインターンでの経験や学びが、今後の進路選択や職業人生でお二人の力となることを心より願っております。この度のインターン参加に心より感謝申し上げます。



インターン生紹介



キクチ ショウイチロウ
菊池 祥一郎さん

福島学院大学2年／郡山市出身

Q1.インターンシップではどのような活動をしましたか

コワーク(内職)の作業をメンバーさんと一緒に行ったり、事務作業を手伝わせていただいたり、農福連携活動の一環としてピーマンの選果作業のお手伝いをしました。最終日にはインターンの成果をまとめてスタッフさんにパワポを使用してプレゼンをしました。

Q2.活動を通してどのような学びや気づきがありましたか

「就労」や「自立」をすることが目的なのではなく「ご本人が納得した人生を送ることができること」が目的だと学びました。答えはご本人の中にあって決して私たちの中にはないという考え方は、将来支援をする仕事を目指す上でとても大事な考え方だと思います。

Q3.学んだことや気付いたことを今後どのように活かしていきますか

初めてのことでばかりで緊張や不安もありましたが、学びや気づきはたくさんあり「新しいことに挑戦することっていいな」と改めて感じました。社会のために最前線で働かれている皆さんと一緒に作業をした経験を自信に変え、これから挑戦を続けたいと思います。



インターン生紹介



ヨシイケ カノ
吉池 花音さん

郡山女子大学附属高等学校2年／郡山市出身

Q1.インターンシップではどのような活動をしましたか

事務作業のお手伝いで領収書のはんこ押しやパソコンの入力、内職コワークでシール貼り、ピーマンの選果作業、軽作業ワークを行いました。就労支援の講座やグループワークにも参加させていただきました。

Q2.活動を通してどのような学びや気づきがありましたか

利用者の方々とのコミュニケーションを通じて個々のニーズや希望に応じたサポートの重要性を強く感じました。そして、インターンシップでの活動を通じてチームワークや報・連・相の大切さを実感することができました。

Q3.学んだことや気付いたことを今後どのように活かしていきますか

インターンシップで学んだ利用者のニーズへの丁寧な対応や共感性は、今後の日常生活での人間関係にも活かせると感じました。また、自己管理やチームワークの大切さを意識し、他者と協力して成果を上げる力を伸ばしていきたいです。



特定非営利活動法人 ココネット・맘

所在地 郡山市鳴神1-138-1

URL <http://www.coconetmamu.net/>



主な活動 郡山市に拠点を置き、子育て支援の活動をしています。学童保育室の運営を中心に託児事業、「子どものまち」「運動イベント」などのイベントの企画、郡山市からの委託事業である郡山市ファミリー・サポート・センターや子育て講座などを行っている団体です。

受入れ団体コメント

参加者に楽しく新しい、そして学びのある体験を提供したいと思っていましたが、かえって私たちスタッフが助けられ、子どもたちも大変楽しい時間を過ごすことができました。子どもたちとの交流以外にも、施設の見学、講座の受講などもしてもらい今の子育て環境の課題や希望について話をする機会を持ちましたが、それぞれにしっかりした考えを持っていることに感心しました。その思いを大切に社会で活躍してほしいと思います。スタッフも大変刺激を受けました。



インターン生紹介



ニヘイ タツヤ
二瓶 達哉さん

東北文化学園大学2年／石川町出身

Q1. インターンシップではどのような活動をしましたか

子どもたちと卓球やサッカー、ドッジボールをしたり、カードゲームのやり方を教わってやってみたりと遊びの見守りをしました。お泊り会の準備では、カレー作りと買い出しのお手伝いをする中で、子どもたちについて知り、たくさん話すことができました。

Q2. 活動を通してどのような学びや気づきがありましたか

子どもたちに自分で考えてもらうために、喧嘩の後自力で解決できるように見守ったり、助けを求めるまで手を出さないことも教育だと学びました。それでもけがをさせず悪影響を与えないようにする、子どもたちと接することの難しさを知りました。

Q3. 学んだことや気付いたことを今後どのように活かしていきますか

これから子どもたちが家庭や学校ではない羽目を外せる場所、のびのび成長できて十分な遊びができる場所を作るために、今回活動してわかった課題を大学での教養に結びつけ、自分なりの考えで成長できるように引き続き学んでいきたいです。



インターン生紹介



アベ フウカ
阿部 楓香さん

郡山高等学校2年／本宮市出身

Q1.インターンシップではどのような活動をしましたか

NPO法人ココネット・ママさんで託児保育や子どもの見守りを行い、小学6年生以下の子どもたちとお弁当作りを体験しました。さらに、子育て講座を通して、地域での子育て支援の仕組みや課題について学び、実践的な知識を身につけました。



Q2.活動を通してどのような学びや気づきがありましたか

子育て支援の現場では、細やかな配慮が必要であることを学びました。特に、子どもとの信頼関係を築くことや、保護者のニーズを理解しサポートする大切さに気づきました。また、地域での協力が子育てにおいて重要な役割を果たすことを実感しました。



Q3.学んだことや気付いたことを今後どのように活かしていきますか

託児保育や子どもの見守りで得た柔軟な対応力やコミュニケーションスキルを、将来の教育や支援活動で活かしていきたいです。また、お弁当作りや子育て講座で培った計画力や知識、協力のスキルをこれからの将来とグループ活動に活かしていきたいです。

インターン生紹介



ツムラヤ ミウ
圓谷 美海さん

福島学院大学2年／須賀川市出身

Q1.インターンシップではどのような活動をしましたか

子どもたちの学童での日常生活のサポートを中心に、イベントの運営やプール遊び、子育て支援施設の見学をさせていただきました。子どもの視線に立って一緒に汗を流して体を動かし、スタッフとして子どもの行動を見守り、支えるなど貴重な経験ができました。



Q2.活動を通してどのような学びや気づきがありましたか

子どもたちは遊び方や話し方、友人や大人との関わり方にそれぞれ特性があるため、その特性に合わせた関わりを心がけるようにしました。また、子どもを笑顔にするためには、養育者や支援者にも心の余裕が必要であり、支え合いが重要であることを学びました。

Q3.学んだことや気付いたことを今後どのように活かしていきますか

子どもが子どもらしく当たり前の生活を送り続けられるように児童福祉の分野を探究し、迅速かつ丁寧な支援を行うことのできる支援者になりたいと胸が熱くなりました。今回のインターンシップで体験した事を今後の生活にも活かし、必ず地域に貢献します！

特定非営利活動法人 あいえるの会

所在地 郡山市西ノ内二丁目11-15

URL <https://aierunokai.com/>



主な活動

「どんな重い障がいがあっても地域で自立生活できる社会を実現する」を基本理念に、介助派遣事業、相談支援事業、生活介護事業、自立生活事業を展開しています。障がい者自身が障がい者問題の一番の専門家であるという考えの基、障がいのある当事者スタッフが、地域で生活する障がいのある人と一緒にみんなが暮らしやすい地域にしていこうと様々な活動をしています。

受入れ団体コメント

初めて参加させていただきました。障がい者福祉を知らない人にわかりやすく伝えることの難しさを感じました。色々知ってほしいことを詰め込み過ぎて伝えてしまったことが反省点です。次回、機会があれば、もっと楽しいことや活動を通して何か学んでほしいと思っています。他人に伝えるということは、自分が理解していないと伝わらないのでこの活動を通して職員の学びになりました。



インターン生紹介



ネモト ミユ
根本 美悠さん

屋久島おおぞら高等学校2年/
田村市出身

Q1. インターンシップではどのような活動をしましたか

計3回の活動で、1回目は「るーとII」※の利用者の方とお話をしたり、2回目は障がい当事者の方やヘルパーさんなどそれぞれの視点からお話を伺い、3回目はあいえるまつりの設営準備のお手伝いをさせていただきました。貴重な経験をさせていただきました。

Q2. 活動を通してどのような学びや気づきがありましたか

今まで何となく障がい者福祉の課題を理解したつもりでしたが、実際に様々な立場の方からお話を伺い、改めて環境の面も心の面も改善していかなければならない課題が多いということに気づきました。

Q3. 学んだことや気付いたことを今後どのように活かしていきますか

今回の活動で学んだことを日常生活や自分自身の成長に活かしていきたいです。障がい者福祉の課題についても仕事やボランティアに関わることができたら嬉しいです。また、今回の活動でいただいた言葉を励みに日々頑張っていきたいです。



※「るーとII」—生活介護事業所

特定非営利活動法人 こおりやま子ども若者ネットワーク

所在地 郡山市神明町16-8

URL <https://kowakanet.localinfo.jp/>



主な活動 子ども若者の社会参加や自己実現、多様性を尊ぶ地域を目指し、主に県中地域で活動しているネットワーク組織です。10～20代の若者向けの地域交流拠点であるユースセンターの運営や、不登校・ひきこもりで悩んでいる方の相談、居場所づくりなどを行っています。

受入れ団体コメント

今年は「つつー」「なっちゃん」「づっきー」の3名のインターン生が参加してくれました。若者の居場所や専門機関の連携会議など、最初の一步がドキドキする場ばかりの活動でしたが、3名とも自分から声がけをしたり、意見を言ったり、その一步を踏み出すことで、すぐにその場の一員になれていたと思います。大人や学生といった肩書きに関係なく、これからも社会をつくる仲間として一緒に活動できるのを楽しみにしています。



インターン生紹介



タケダ ナツミ
武田 菜摘さん
宮城大学2年／郡山市出身

Q1. インターンシップではどのような活動をしましたか

高校での居場所づくり、市民コミュニティソーシャルワーカー研修会in福島への参加、子どもの遊び場づくり、ユースセンターゆ〜くる運営サポートなど、様々なことをさせていただきました。

Q2. 活動を通してどのような学びや気づきがありましたか

自分より年下の子と触れ合うことの難しさを改めて知ることができました。また、研修会では地域作りに関することを多く学びました。

Q3. 学んだことや気付いたことを今後どのように活かしていきますか

今回学んだことを、地域のために活動したいという自分の将来の目標のために活かしていきたいです。また今後は積極的に様々な活動に参加していきたいです。



インターン生紹介



オオダイラ ウツキ
大平 愛月さん
福島大学3年／青森県八戸市出身

Q1.インターンシップではどのような活動をしましたか

ユースセンターゆ〜くるの活動や、市民コミュニティソーシャルワーカー研修会in福島、引きこもり家族会に参加させていただきました。

Q2.活動を通してどのような学びや気づきがありましたか

ユースセンターゆ〜くるを見学させていただき、ゆ〜くるを利用する子どもたちが自分たちでルールを決めたり、やりたいことについて話し合いて内容を詰めていき実現まで至らせるなど、子どもたちが主体となり意思が尊重される場があるということを学ぶことができました。

Q3.学んだことや気付いたことを今後どのように活かしていきますか

児童福祉職への就職を考えているため、今回の活動で知ることができた、ゆ〜くるのようなユースセンターの事業を行っているNPO法人への就職という選択肢を新たに増やすことができました。活動の経験をふまえさらに学びを深めていきたいです。



インターン生紹介



ツネツネ ミサト
常恒 美里さん
福島県立医科大学2年／郡山市出身

Q1.インターンシップではどのような活動をしましたか

ユースセンター「ゆ〜くる」を利用する学生と会話やゲームをしたり、「ゆ〜くる」で行われた夏祭りの運営サポートを行いました。また、こわかネットとしての校内活動場所カフェ、加盟団体の活動見学、わかものワークショップの見学をしました。

Q2.活動を通してどのような学びや気づきがありましたか

私は最初、スタッフが若者に場所を与え、何かを実行する場合は助言する関係性だと考えていました。しかし、スタッフが上の立場からサポートするのではなく、若者と一緒になって利用し、対等な関係であるからこそ居心地がよく、安心できる環境が生まれるということを知りました。

Q3.学んだことや気付いたことを今後どのように活かしていきますか

自分が学んだ対等な関係性を築くことの大切さを今後のコミュニティ活動に活かしていきたいです。目的を果たすことを最初に意識するのではなく、その環境が行動しやすく、意見の述べやすい空間を作っていくことを意識できるきっかけになりました。



NPO法人 くらすた

所在地 田村市船引町船引字五升車37

URL <https://ship.kra-sta.com/>



主な活動

2011年の東日本大震災を契機に組織された「田村市復興応援隊（H25年～）」の運営を主に、被災地田村市都路町を中心に復興支援・地域振興・居場所作りなどの活動を行っている団体です。法人のテーマは「誰もが参加できる社会を目指す」であり、活動の主軸は「住民主体」「本質的課題解決」であり、活動に従事するスタッフは「楽しむを、仕事に」を旨としています。



受入れ団体コメント

村越さんは学校でも様々な取り組みをしていて、地域貢献活動に熱心な方なので、短いながらもインターン活動中は積極的に当事業に臨んでいただき、地域のことをもっと知ろうとする姿に感銘を受けました。特に商店街に自らインタビューに出かけるなど、我々に関わる地域の人まで元気になってくれて本当にありがたかったです。これから頑張ってください！何かお役に立てることがあればお気軽にお声がけくださいね。



インターン生紹介



ムラコシ リ エ
村越 里衣さん
船引高等学校3年／田村市出身

Q1. インターンシップではどのような活動をしましたか

イベントの準備やお手伝い、かわら版の配布、地元のフィールドワークを行いました。そして実際にイベントを開催している方のお話を聞き、どういった目的でイベントを開催しているのかを知ることができました。

Q2. 活動を通してどのような学びや気づきがありましたか

地域を復興させるためには人と人との繋がりが大切だと学びました。人と人との繋がりがあることによって、地域を活性化させる活動ができると感じました。また、コミュニケーションを取ることも大切だと気づきました。

Q3. 学んだことや気付いたことを今後どのように活かしていきますか

地域のボランティア活動の際に、インターンシップで学んだことを活かしたいです。また、将来の目標達成のための活動にも活かしたいと思いました。



特定非営利活動法人 表郷ボランティアネットワーク

所在地 白河市表郷金山字越堀151-1

URL <https://omotego.wixsite.com/omotego>



主な活動

「生まれてきてよかった、住んでいてよかった」地域づくりをめざして、災害福祉、文化交流、環境の3分野で活動しています。特に安心・安全なまちづくりとして、現在は高齢者の居場所「くつろぎルーム」の運営や「ふれんず号」での買物代行、移動販売車「すまいる号」での見守り生活支援等の事業を行っています。

受入れ団体コメント

参加される皆さんは、どの方も目的を持って来られていて、とても意欲を感じます。短期間ながらも、NPO法人の活動に積極的に取り組み、回りのスタッフや高齢者とも溶け込めるのは、素晴らしいなあと感じました。またお話をしていくうちに、どこかでご縁が繋がっていたり、課題や提案もいただいたりして、受入れ団体でよかったと思いました。閉講式での皆さんの発表は、毎回胸が熱くなります。今回NPOで体験したことを将来に活かしていただけたら嬉しいです。応援しています。



インターン生紹介



タ ケ イ カエデ
竹井 楓さん
東洋大学2年／白河市出身

Q1. インターンシップではどのような活動をしましたか

活動内容として、団体事務所のくつろぎルームでの居場所事業、見守り移動販売すまいる号での金額計算や運搬、そしてお買い物代行ふれんず号での利用者さんの依頼に沿ったお買い物をご自宅まで配送するという主に3つを行いました。

Q2. 活動を通してどのような学びや気づきがありましたか

NPO法人として、非営利であっても地域住民のための活動に多くの時間を割いていて、NPOの意義について考える機会となりました。また、表郷や他の白河市内の旧村地域の現状について改めて自分の目で見て知ることができました。

Q3. 学んだことや気付いたことを今後どのように活かしていきますか

今後はNPO法人についてその運営体制と他にどのような法人があるのかについて調べ、自分にもできることから始めてみようと思います。また、地方の地域をよりよくするためにできる活動について考え、実際に活動していきたいと思っています。



特定非営利活動法人 環境地域文化エナジー

所在地 会津若松市七日町9-7

U R L <https://www.facebook.com/aizu.energy/>



主な活動 2008年11月設立。当初は地域内への再生可能エネルギーの普及や実証などの取り組みが主でしたが、活動を通じて地域内の様々な課題に気づき、活動の範囲が広がりました。現在は、地域内の人口減少や高齢化に伴う地域活力の低下への対応で「移住・定住支援」「創業支援」に力を入れて取り組んでいます。

受入れ団体コメント

この度は、インターンシップ事業に参加し、インターン生を受け入れる機会をいただきありがとうございます。インターン生の視点や柔軟な発想が私たちの活動に新たな活力を与えてくれました。移住・定住に関する研修を通じて、真摯に取り組む姿勢に感銘を受け、私たちも多くを学びました。これからも挑戦を続け、素晴らしい未来を築いていかれることを心より応援しています。またどこかでお会いできる日を楽しみにしています！



インターン生紹介



ヒラノ サワ
平野 佐和さん
東北学院大学3年／福島市出身

Q1. インターンシップではどのような活動をしましたか

実際に移住された方や移住をサポートされている方のお話を伺いました。移住された方を訪問し、各地域に移住を決めた理由とその地域で活動されている内容を知ることができました。最終日に移住定住策について発表を行いました。

Q2. 活動を通してどのような学びや気づきがありましたか

令和5年度の福島県の移住世帯数・移住者が過去最多というニュースを見たことがありましたが、その背景には県内の振興局の方々だけではなく東京のNPO法人の方々のサポートがあつてこそだったのだと気づきました。

Q3. 学んだことや気付いたことを今後どのように活かしていきますか

「移住者側」の気持ちになり、どのような地域であれば移住し、住み続けたいとなるのか自分の理想や周りの人の理想から考えてみたいと思いました。また次は東日本大震災の被災地域での移住定住策についても考えていきたいです。



特定非営利活動法人 会津自然塾

所在地 大沼郡会津美里町高田前川原3476

URL <https://aizu-shizenjuku.jimdofree.com/>



主な活動 「有機農業で地域おこし」をテーマに有機農家7軒が中心となって活動する会員70名の団体です。有機農産物の宅配事業を中心に、農産物加工、様々なマルシェや、地域の文化事業・交流事業等への参加など多岐にわたる活動をしています。

受入れ団体コメント

インターンシップ3日目は、テントが吹き飛ばされそうな風雨の中「道の駅あいづ」でのマルシェとなりました。若いお二人の笑顔に励まされ、有機農産物の出展物は完売、達成感あふれる楽しい一日となりました。これで最後と思うと寂しく感じた日でもあります。若いお二人からエネルギーを分けてもらったとても刺激的な3日間でした。これからのお二人のご活躍を祈念いたします。ありがとうございました。



インターン生紹介



ヤモリ ミサキ
矢森 美咲さん

あさか開成高等学校3年/
猪苗代町出身

Q1.インターンシップではどのような活動をしましたか

販売するジャムに使う果物の収穫とジャム作り、地域の農家さんの野菜や自然塾で制作した製品の販売を行いました。マルシェでの販売は、道の駅で行い、幅広い年代の方と出会いました。

Q2.活動を通してどのような学びや気づきがありましたか

野菜を作る人、売る人、買う人の間に笑顔があふれていました。人や地域の繋がりの大切さを感じました。会津美里町には会津自然塾を通してコミュニティがあると実感しました。

Q3.学んだことや気付いたことを今後どのように活かしていきますか

今後も福島県で暮らしていきたいと思っているので、今回学んだことを地元やこれから住む場所に活かし、自分の手でより良い地域創りをしていきたいです。



インターン生紹介



ヤマグチ イツキ
山口 樹生さん

会津西陵高等学校3年/
会津美里町出身

Q1.インターンシップではどのような活動をしましたか

- ・宅配する野菜の仕分け
- ・マルシェのお手伝い

Q2.活動を通してどのような学びや気づきがありましたか

農業を使わない有機栽培で野菜を育てるために、普通に育てるよりも病気にかかりやすい分、色々なことに気をつけなければいけないと学び、病気にかからないために菌を使うと聞き、農業にも菌は使えるのだと学ぶことができました。

Q3.学んだことや気付いたことを今後どのように活かしていきますか

有機栽培を実践している農家の人が少ないのが現状だと聞いたので、もっと有機農業について理解を深め将来農家にならなくても畑などやる時に、学んだことを実践し自分で野菜を育ててみようと思いました。



特定非営利活動法人 ふれあいサポート館アトリエ

所在地 相馬市中村字北町1-8

URL <http://souma-jidou.ciao.jp/wp/>



主な活動 創設より59年。絵画造形教室、体験教室を軸に、子育て支援、福祉に携わってきました。現在、市からの指定管理として児童センター他市内の放課後児童クラブ、子どもの遊び場等の委託を受けています。

受入れ団体コメント

子どもたちが楽しみにしている夏休みのイベント。市内の5つの学童クラブが集まるため、人数もやることもたくさんで大変だったと思います。先生方は子どもたちの喜ぶ姿を想像しながら準備に準備を重ね、結果、先生たちも十分楽しんだイベントでした。子どもの命を預かる仕事の大変さだけでなく、おもしろさも感じてもらえたのなうれしいです。イベントのような大きく動かす活動だけでなく、通常の子どもとじっくりかかわる活動も経験してほしかったので、時間があつたらぜひまた遊びに来てください。



インターン生紹介



ミウラ
三浦 ひなたさん

相馬総合高等学校3年／
相馬市出身

Q1. インターンシップではどのような活動をしましたか

自由遊びでは子どもと一緒にカードゲームをしたり塗り絵をしたりしました。夏休みなので、ゲーム大会や夏祭り、流しそうめん、ゼリー作りなど、普段はできないイベントもたくさんありました。

Q2. 活動を通してどのような学びや気づきがありましたか

自分でやってみようとしている子には、すぐに援助するのではなく、見守ることも大切であるということ、子ども一人ひとりに合った声掛けの仕方があること、他の先生とのチームワークがとても重要であることなど、たくさんのことを学ぶことができました。

Q3. 学んだことや気付いたことを今後どのように活かしていきますか

私は将来、保育士になりたいです。今回の活動を通して、どのように子どもと関わる保育士になりたいのか考え直すきっかけになりました。今回学んだこと、教えていただいたことを忘れずに、素敵な保育士になるように、たくさん勉強しようと思いました。



特定非営利活動法人 青陽

所在地 いわき市平下神谷字丘田帯5

U R L <https://i-geisho.jp/>



主な活動

いわき市内で学童保育を3ヶ所、放課後等デイサービスを2ヶ所運営しています。明るく楽しくをモットーに将来自立できる社会的スキルを身につけていける事業所を目指します。

受入れ団体コメント

仕事に興味を持った学生が、実際の職場体験は本人にとっても直接仕事に触れるよい機会だと思います。やる気を持った学生が職場に入ること、現場にもフレッシュな空気感が生まれることは楽しいことです。できればもう少し体験期間を延ばすことができれば仕事に対する理解が進むと思います。



インターン生紹介



カミヤ マホ
神谷 麻帆さん

いわき市医療センター看護専門学校1年／
いわき市出身

Q1. インターンシップではどのような活動をしましたか

主に子どもたちと遊び、交流しました。屋内でトランプや塗り絵、それぞれの子どもに合った遊びを一緒に行いました。また、勉強指導やお昼ごはんを一緒に食べました。お迎え時には保護者の方とお話する機会もありました。

Q2. 活動を通してどのような学びや気づきがありましたか

子どもは一人ひとり異なるため、それぞれの特徴を掴むことで接し方も変化していきました。また、子どもにも自己ルールなどがあるため、適切な距離感を取ることを意識しました。子どもと接することの大変さ、また子どもから得られる学びも多くありました。

Q3. 学んだことや気付いたことを今後どのように活かしていきますか

小児看護師を目指す者として、子どもとの接し方・コミュニケーションの方法など、今後の病院実習で学んだことを活かしていきたいです。障がいを抱えた子どもとも接する機会があったので、学習に結びつけ、より深い看護を学んでいきます。



インターン生アンケート

参加者数 30名
アンケート回答者数 30名(回収率100%)

Q1

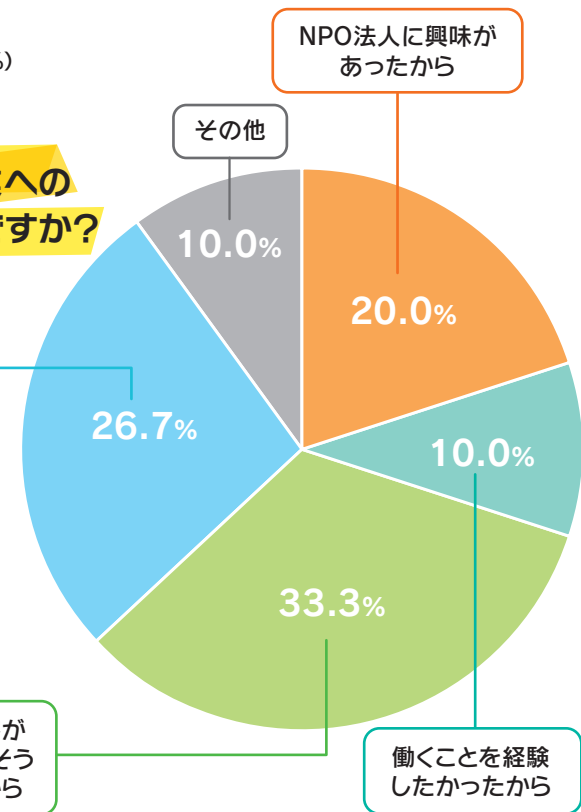
チャレンジインターンシップ事業への参加を決めた一番の理由は何ですか？



復興や地域のためになる活動がしたかったから

活動内容が
おもしろそう
だったから

働くことを経験
したかったから

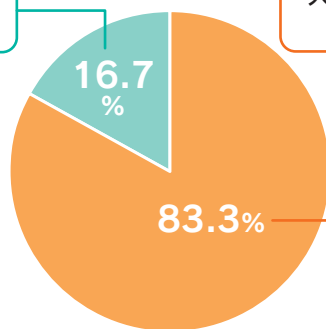


Q2

活動してみてどのように感じましたか？

有意義
だった

大変有意義
だった



- 実際に経験しないと学べないことを知ることができた。
- 興味のあることにチャレンジでき、ここでしかできない経験ができた。
- 普段の生活では接することのない子どもたちと過ごし、新たな気づき、学びを得た。
- 様々な人と関わったことで視野が広がり、具体的な支援の方法や現場での対応方法について学ぶことができた。
- 学童スタッフとして、子どもたちやその家族にどのように関わっていくか、子どもたちの学童で過ごす時間をどのようにサポートしていくかなどを考え、大学の講義では学ぶことができない経験をさせていただいた。

- 子どもと関わる仕事を体験して、自分の将来について考えるきっかけになった。
- 福島の知らなかったことについて知れたことに加え、将来に活かせる知識を得ることができた。
- 地元の慈善活動に参加することができ、自分も一つ成長できたことこの活動を通して実感した。
- 高校生のうちに障がいやNPOについて実際の体験を通して勉強させていただき、かけがえのない経験をさせていただいた。
- 自分と地域とのつながりを感じることができた。
- 地域の人との関わりや地元の活動などを手伝いながら楽しむことができ、とても有意義な活動だった。
- 自分が普段接することがないような子どもたちと関わるることができた。コミュニケーション力がとても試された。
- 今まで疑問に思っていた点や知らなかった点について実際に活動されている団体の方に直接質問でき、自分の中で新たな考えや課題を生むことができた。
- 関心のある分野において知らなかった活動を知ることができ、実際の雰囲気も知ることができた。
- 普段生活していたら見られないNPOの人の実際の活動や関わり方や、この活動に参加していなければ出会えなかったコミュニティと関わるることができた。
- 初めて体験することが多く、沢山のことを学べた。

Q3

NPO団体で活動した経験で 今後(学生生活、就職活動等)に 活かせることはありましたか？

- 挨拶、礼儀など進路に活かせることだけでなく人として大切なことを学べた。
- 授業で学んでいる分野について実践を通して学習できた。
- 助産師、小児看護師を目指しているので、今回の経験はとても貴重なものだった。
- 働く歳になったときに役立つと思った。
- 将来労働基準監督署に勤めたいと考えていたので、労働問題に触れることができた。
- 地域と関わる仕事に就きたいと考えている。
- 活動終了後も、ボランティアや児童福祉分野を目指す学生として関わらせていただけており、お話するたびに子育て支援の重要性や、子どもたちが当たり前の生活を送り続けられるために、私たちには何ができるのだろうと何度も考えさせられた。NPO団体の皆さんとの出会いは私の人生を変えた。就職活動や将来の就職先を決定する際にも、アドバイスをいただけたらうれしく思う。
- 利用者さんとの関わり方、お仕事の体験を通して今後の就職について、就きたい職種について考える機会が増え、また福祉系についても考えるようになった。
- 様々な人を思いやる心が醸成された。
- 現在大学でNPOについて学ぶ講義に通っているが、その際にインターン中に学んだことが役に立っている。
- 初めての仕事の経験や発表を通じて、一つステップアップすることができた。
- 社会福祉の仕事に応用できるものを見つけられた。
- 将来は復興の仕事に携わる職に就きたいと考えているので、この経験は必ず将来の助けになると確信している。

活かせることは
なかった

6.7%

活かせることが
あった

93.3%

- 街で障がいがある方を見かけたとき、声をかけることができたのは今回のインターンシップの活動に参加した経験があったからだと思う。
- 学校の活動で地域活性化のために自分ができることは何かと考えるようになった。
- 人と人との協力の大切さがよくわかり将来に活かしていこうと思った。
- コミュニケーションの大切さを学んだ。
- 初めての人が相手でも、どうやって接するか(相手はしゃべりたいのか一人でいたいのか)を常に考え続ける習慣づけに気づかされた。
- 福島県での就職を考えているため、現在福島はどのような課題がありどのような活動をしているのか、実際に活動する側になって現地で実感できてとても貴重な経験になった。
- NPO法人への就職も考えるようになった。
- コミュニティ活動においてどのような関係性なら良好でいられるのか、将来の職業で若者への支援を行う場合、このような場があると実際に体験したからこそ伝えられることができる。
- 外国人就労支援について、地域コミュニティについて活かせると思った。

Q4

チャレンジインターンシップ事業を通じて、 NPOへの理解は深まりましたか？

- 職員さんの仕事ぶりやお話を聞いてNPOがどのような活動をしているのかを知ることができた。
- 地域においてNPOが重要であることを学んだ。
- 名前しか知らなかったが、実際にNPO法人の職業を体験して、どんなことをしているのか理解できた。
- 今まではNPOについてあまり知らず、それについて知るという目標もあったが、このような理念で、どう活動しているかを知ることができて良かったと思っている。
- 自分自身が参加前に持っていた疑問を解決できた。
- 行政や企業で補えない部分をNPOがより地域に密着した形で補っていると知ることができた。
- NPO法人の活動内容やその目的を知れた。
- 活動を通してNPOのことも教えてもらい理解が深まった。

あまり理解できなかった

3.3%

理解した

36.7%

よく理解した

60.0%

- 漠然とあったNPOについてのイメージが、今回の活動を通してどれだけ地域に密着し、地域を支えられてきたのか実感して変わった。
- 自分が活動した団体の若者へどのような支援をしているのかを体験を通して学べ、また、成果報告会でほかの人に活動の成果を聞くことでほかのどのような団体があるのか知ることができた。

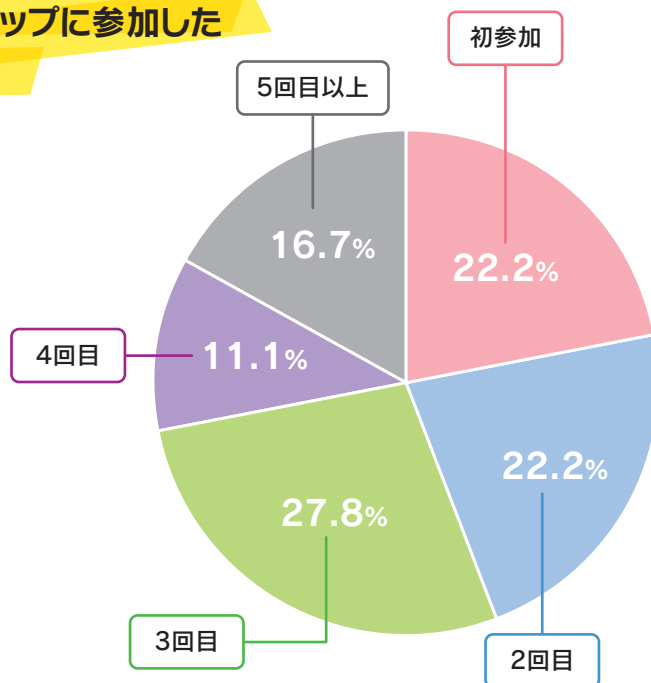
受入れ団体アンケート

受入団体数 18団体

アンケート回答数 18団体(回収率100%)

Q1

チャレンジインターンシップに参加した回数を教えてください。



Q2

参加を決めた理由を教えてください。

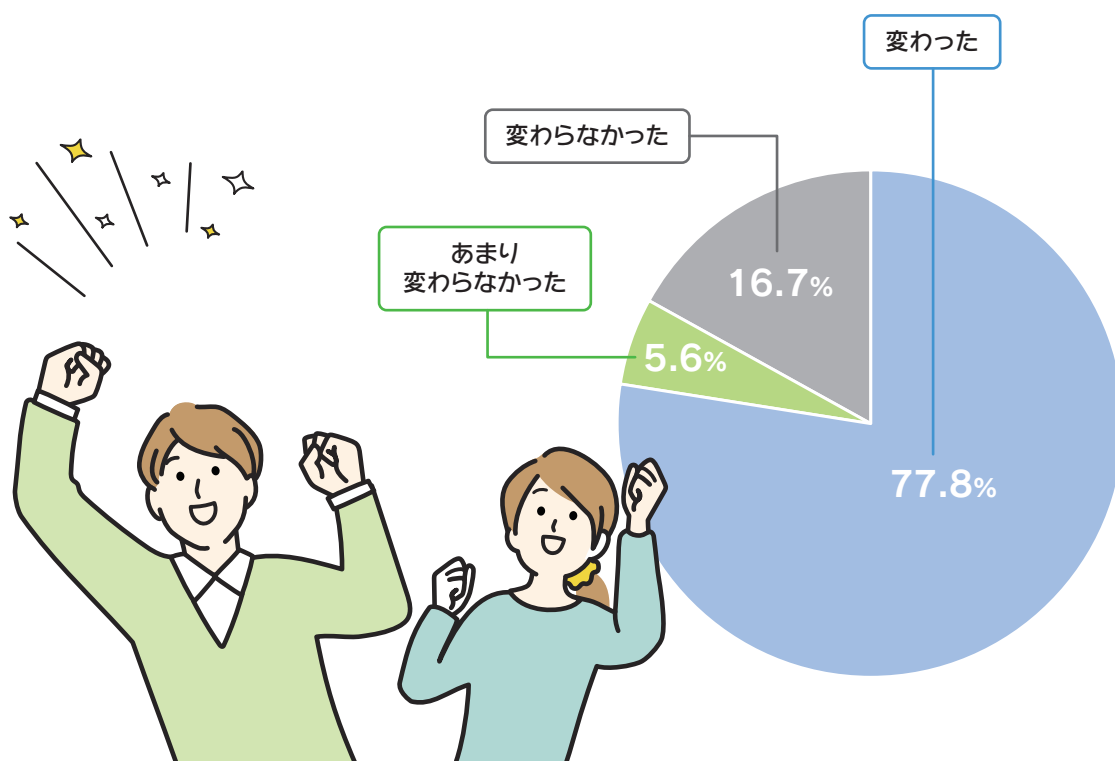
- 団体に新たな視点を取り入れられることを期待して、スタッフの成長の機会として。
- 当協会の活性化に資するため。
- イベントで人手が欲しかったのと事業の趣旨に賛同したから。
- コロナ禍で、地域の人や学生との関わりが希薄化していたため。
- 学生さんに色々な経験をしていただき、自分の目標等にお役にたてればと思った。
- 若い方にNPOの活動を知ってもらふことと、若い方の体験場所となること。
- 学生との繋がりや学ぶことがあるため。
- こども食堂やNPOについて知ってほしいから。
- 学生の活動機会を増やしたい。当団体のスタッフが今の若い方の価値観感覚を知る機会になるから。子どもたちが喜ぶから。団体を知ってもらえるから。NPOという働き方もあることを知ってほしいから。

- 団体の目的にリーダー育成事業があり、若者の育成に貢献したいと思っているから。
- 事業所にとってもいい経験になるから。
- 学生の力をお借りするため。
- インターン生の方との交流がとても有意義です。
- 法人の活動を広く知ってほしかったため、環境保全について興味を持ってほしかった。
- 学生の方にNPOの活動や子ども若者支援のことを知ってもらいたいから。
- 毎年、優秀な方が来てくれるため、団体としても勉強になるため。
- 福祉事業への理解。
- 法人の活動理解の機会として。



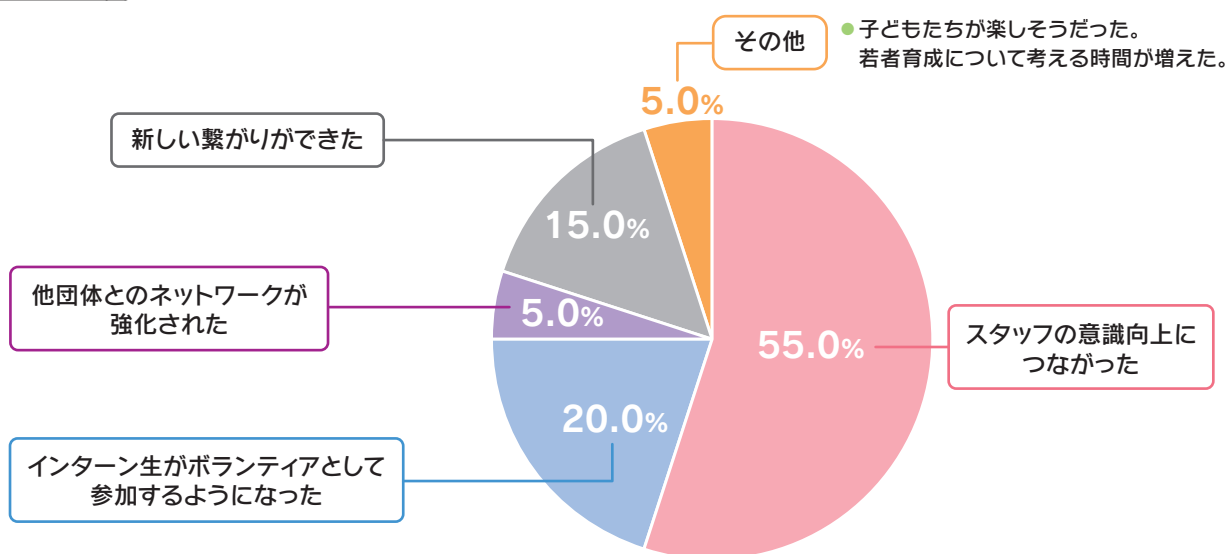
Q3

インターン生の受け入れをしてみて、何か変化はありましたか？



Q4

Q3で「変わった」を選択した主な理由は何ですか？





これまでのチャレンジインターンシップ事業の活動の様子は
こちらからご覧いただけます

<https://f-intern.f-saposen.jp>



令和6年度
「チャレンジインターンシップ事業」
事業報告書

令和7年3月1日発行

発 行	福島県企画調整部文化スポーツ局文化振興課 〒960-8670 福島県福島市杉妻町2-16 本庁舎5階 電話 024-521-7179 FAX 024-521-5677
運営受託 事 務 局	認定特定非営利活動法人ふくしまNPOネットワークセンター ふくしま地域活動団体サポートセンター 〒960-8043 福島県福島市中町8-2 福島県自治会館7階 電話 024-521-7333 FAX 024-523-2741

